

## ⑫マスコミ・出版界における差別事件

毎日放送の番組「ちちんぷいぷい」で二〇〇七年五月、大阪府が発表した「大学生の就職に係る公正採用選考に反する問題事象」報告書がとりあげられるなかで、報告書が問題事例としてあげている「本籍・出身地に関する質問」、「病歴の質問」、「尊敬する人物」などの質問に関して出演者らが、なぜ問題なのかわからないといった否定的な意見を集中、応募者の「思想を知りたい」などの発言が相次ぐなど、これまでの公正採用選考の取り組みや同報告の趣旨とは逆行する放送を行った。府民からおかしいとの声があがり、大阪府が毎日放送に抗議。毎日放送は放送の誤りを全面的に認め謝罪し、このほど大阪府から「総括文書」が出された。問題放送の概要は以下のとおり。

「二〇〇五年、府内の八五大学と高専で就職差別につながる問題事例のアンケートを実施。その結果を発表したのですが、それによると、問題事例はおよそ一二〇〇件あった。そのうち「家族状況に関する質問」がおよそ六三%を占めました。」との説明のあと…「兄弟何人いるかもアカンのかと。そんなんもアカンのか？という話をした。何なんでしょうね」「収入とかはアカンと思うけど『兄弟いる？』とかはアカンのかなあ」。「大学に届いた求人票などで見つかった問題事例は一〇七件、そのうち『本籍・出身地』に関する質問が五五件もあった」との説明のあと…「これはちょっとと思うこともあるんですけど。ただね『君、大阪なんかとか』どこなん？』と聞きたくなるヤツもおりますもんね」。「会社独自のエントリーシートに出身地、家族構成、実家住所、さらに色覚、既往症の質問があった」「『尊敬する人物は？』など思想に関する質問があった」との説明のあと…「これは聞くよね。A・B・Cやね」「これはちょっと前からアカンようになった。思想に関わるから」「思想を知りたい。それで、差別はせえへんから」「『ヒトラーが好き』と言ったとしても、それはそれでエエやないですか」「その理由がおもしろかったら」。「面接で『営業なら採用するがミニスカートををはいてもらう』などのセクハラ発言を繰り返した」事例に関する説明のあと…「これは何でアカンのか？」「それはアカンよね。ダメ」「営業やったら、何でミニスカートなんやろ？」「おそらくユニフォームがそうなんやろうと。問題は繰り返したことなんやろうと。制服が短いと、それはOKしてよという言い方はあるかも。採用してから、こんなんやったらイヤやといわれたら困るから。言い方で繰り返したらそれは、問題かな？」「新地では、ママに命令を受けますよね。ミニスカートををはけて言われるわ」。

また、「ちちんぷいぷい」二〇〇七年十一月一九日の放送で、当選直後の平松邦夫大阪市長をゲストに招いたコーナーで、出演者の毎日放送社員が前後に何の関連性もないにもかかわらず、大阪市の職員数が他の自治体に比べて多い原因に同和行政があるかのような発言を行った。部落解放同盟大阪府連では発言の真意を問うべく、十一月二六日付けで質問・要請文を毎日放送に提出。以来二度にわたり文書のやりとりをしてきたが、二〇〇八年五月二日、制作の責任者である三村景一制作局長らが府連を訪れ、誤解をまねく放送になったことへの反省の意を表した。

放送番組内の人権侵害を審理する第三者機関「放送と人権等権利に関する委員会」(BRC)は二〇〇

七年十一月二日、〇六年十一月に毎日放送が放映した報道番組「VOICE」のなかに「看過できない問題がある」として不適切な表現があったとの決定を出した。

問題の番組は「大阪市の民間社会福祉施設等に対する償還金補助」について取り上げたもので、実際は市の処理の遅れにより二年分の補助金が同じ年度に支払われていたことを取材段階で知りながら、部落解放同盟大阪府連書記長が理事を務める法人に「なぜか二倍の補助金が…」など、あたかも法人側に不正があったかのような印象をあたえる手法を用いて実現していた。北口末広書記長らがBRCに「事実を反する報道で名誉を侵害された」などとして申し立てていた。

BRCの決定では「不透明な補助金制度と部落解放同盟とを強く関係づけ、番組内で補助金を受けていた他の法人については具体的に触れることなく、部落解放同盟ないし解放同盟の呼称を五回も使用して報道した」「本件報道によって解放同盟が、毎日放送のいうところの『ヤミ補助金』に深くかかわっているものとして印象づけ、部落解放同盟大阪府連書記長として知名度の高い申立人の肩書きを表示したことによって、その社会的評価を低下させたことは否定できない」と指摘。毎日放送は「指摘は重く受け止め、今後も放送倫理の順守に努める」とのコメントを出した。